確認試験
1 ジヒドロストレプトマイシン硫酸塩
本品の表示ジヒドロストレプトマイシンの力価に従い、約200mg（力価）に対応する量をとり、メタノール20mLを加えてよくかき混ぜた後、遠心分離する。上澄液を捨て、残留物に水20mLを加え、よく振り混ぜ、ろ過し、試料とする。
(1) 試料5mLに水酸化ナトリウム試液0.5mLを加え、更に1-ナフトールの薄めたエタノール(95)(7→10)溶液(1→1,000)1mL及び次亜塩素酸ナトリウム試液2〜3滴を加えるとき、液は赤色を呈する。
(2) 本品につき、薄層クロマトグラフィーにより試験を行い、確認する。
① 展開溶媒 N,N-ジメチルホルムアミド/メタノール/水/酢酸(100混液(3:3:2:2)]を用いる。
② 常用標準希釈液 常用標準ジヒドロストレプトマイシン適当量をとり、水を加えて溶かし、約10mg（力価）/mLの希釈液を作る。
⑤ 判定 展開した薄層板に過マンガン酸カリウム溶液(→1,000)を均一に噴霧した後、50〜60℃で約5分間加熱するとき、試料溶液の示すスポットのRf値は、常用標準希釈液のそれと等しい。
2 ベンジルペニシリンプロカイン
本品の表示ベンジルペニシリンの力価に従い、約200,000単位に対応する量をとり、メタノール20mLを加えてよくかき混ぜた後、遠心分離して上澄液をとり、試料とする。
(1) 試料をとり、30〜40℃の水浴中で減圧にてメタノールを留去し、残留物の飽和水溶液にヨウ素試液を加えるとき、褐色の沈殿を生ずる。
(2) (1)で得た残留物の飽和溶液5mLに希塩酸3滴を加えて振り混ぜ、亜硝酸ナトリウム溶液(1→10)を1滴加える。この液に水酸化ナトリウム試液2mLと水3mLの混液に2-ナフトール50mgを溶かした液を滴加するとき、橙赤色〜赤褐色の沈殿を生ずる。
(3) 本品につき、薄層クロマトグラフィーにより試験を行い、確認する。
① 展開溶媒 [アセトン/水/メタノール混液(2:1:1)]を用いる。
② 標準希釈液 ベンジルペニシリンプロカイン適当量をとり、メタノールを加えて溶かし、約10,000単位/mLの希釈液を作る。
⑤ 判定 展開した薄層板にヨードアジド試液を均等に噴霧した後、約100℃で約10分間加熱するとき、試料溶液の示す紫色のスポット（プロカイン）及び白色のスポット（ベンジルペニシリン）のRf値は、標準希釈液のそれと等しい。
規格（1）本品は、表示されたジヒドロストレプトマイシンの力価及びベンジルペニシリンの力価のそれぞれ90〜120%を含む。
（2）無菌試験；適合
（3）乾燥減量；4.2%以下（第2法）
力価試験

1 ジヒドロストレプトマイシン硫酸塩
円筒平板法
① 培地 種層用寒天培地及び基層用寒天培地
ペプトン 5.0g カンテン 13.0〜20.0g
肉エキス 3.0g
以上をとり、水を加えて溶かし、1,000mLとし、滅菌する。pHは、7.8〜8.0とする。
② 試験菌 Bacillus subtilis ATCC 6633 を用いる。
③ 常用標準希釈液 常用標準ジヒドロストレプトマイシン適当量をとり、減圧下（0.67kPa以下）、60℃で3時間乾燥した後、その10〜20mg（力価）に対応する量を精密に量り、0.5g/dLリン酸塩緩衝液（pH6.0）を加えて溶かし、約1mg（力価）/mLの濃度の明らかな原液を作る。原液は5〜15℃に保存し、30日以内に使用する。用時、原液の適量を正確に量り、0.1mol/Lリン酸塩緩衝液（pH8.0）で正確に希釈して8μg（力価）/mL及び2μg（力価）/mLの試料溶液を作る。
④ 試料溶液 本品の表示ジヒドロストレプトマイシンの力価に従い、容量1容
器中の全量を0.1mol/Lリン酸塩緩衝液（pH8.0）に溶かし、約2mg（力価）/mLの濃度の明らかな原液を作る。本品のベンジルペニシリンの表示力価に従い、この液にベンジルペニシリンを不活化するに十分な量のペニシリン分解酵素を加えて36〜38℃で1時間放置した後、同緩衝液（pH8.0）で正確に希釈して8μg（力価）/mL及び2μg（力価）/mLの試料溶液を作る。

2 ベンジルペニシリンプロカイン
円筒平板法
① 培地 種層用寒天培地及び基層用寒天培地
ペプトン 10.0g 塩化ナトリウム 2.5g
肉エキス 5.0g カンテン 13.0〜20.0g
以上をとり、水を加えて溶かし、1,000mLとし、滅菌する。pHは、6.4〜6.6とする。
② 試験菌 Staphylococcus aureus ATCC 6538P を用いる。
③ 常用標準希釈液 常用標準ベンジルペニシリン20〜40mgを精密に量り、1g/dLリン酸塩緩衝液（pH6.0）を加えて溶かし、約1,000単位/mLの濃度の明らか
な原液を作る。原液は5℃以下に保存し、2日以内に使用する。用時、原液の適
量を正確に量り、同緩衝液で正確に希釈して2単位/mL及び0.5単位/mLの試料
液を作る。
④ 試料溶液 本品の表示ベンジルペニシリンの力価に従い、1容
器をとり、全
量にベンジルペニシリンが溶解するのに必要な量のメタノール又は1g/dLリン
酸塩緩衝液（pH6.0）/メタノール混液（1：1）を加えて激しく振り混ぜ、更に同
緩衝液を加えて正確に一定量とし、約1,000単位/mLの濃度の明らか
な試料原液を作る。この液の適量を正確に量り、同緩衝液で正確に希釈して2単位/mL及
び0.5単位/mLの試料溶液を作る。